



大阪錦繪新
第廿五

九化記

大坂堂鳴中通二丁目
卅九番地油商ひたる伊東政
捕家内打つまゝ泰諾に四天王寺
へ出行り三月の十五日カ極
樂の彼岸會に内地獄の金
たつて油を製する大釜に留
全ハ下男と下女へ如何しや
誤ちてかへり縛るカノ金へ薄け
込下女を即刻に抱き上ると養生
叶も同日午後の七時頃息絶
こ七糸の毒あま誰も此画を戒
めとし心を用ひ給ふべし

伊東政二代
貞後聖

川和

眼九

